

# 鈴鹿の森庭園「しだれ梅」と東海道「関宿」活動報告

実施日 令和4年3月4日(金) 天気晴れ 64人参加 記録3班  
集合 JR高槻駅 2階中央口改札付近 8時40分 バス2台  
行程 松坂屋前(9:00) 出発 →土山PA →鈴鹿の森庭園(ガイド2人と巡回) →観音山公園(昼食)  
→関宿(A~Dに分かれ、ガイドと共に見学) →草津PA →JR高槻駅(17:25) 解散

## 活動

寒い冬が終わりを告げ、春になる準備が始まる季節、そら組の定例会再開第一弾は、「しだれ梅を愛で、歴史の宿場町で参勤交代や伊勢参りの旅人氣分を味わう」企画でした。

まずは八重咲きの代表である、「呉服枝垂」(くれはしだれ)を中心に、「仕立て技術」の存続と普及を目的とする研究栽培農園「鈴鹿の森庭園」へ。2014年にオープンした意外と新しい農園です。

入園して目の前の樹齢100年以上といわれる2本の呉服枝垂の威容にビックリ。この呉服枝垂『天の龍』『地の龍』は、現在品種確認された、最古の「しだれ梅」で園のシンボルです。どの「しだれ梅」も、高さがあって、天からウメの枝が降り注いでいるか、シャンデリアが垂れ下がっているかのようです。園内には、日本中から集められた、しだれ梅を中心に約200本30種類にもわたるさまざまな品種の梅が咲きます。約2万平方メートルある庭園は、巨大な梅の盆栽のなかに迷い込んだようでした。展望台から見える鈴鹿山脈の雪景色と咲き始めた蕾の薄紅の広がりがマッチして絵になり、見事なしだれ梅園でした。白梅、紅梅は見頃でしたが、惜しむらくはしだれ梅は2分咲きで、探せばぽつぽつと開花。可愛らしい蕾と咲き始めた花のコラボショットを撮ろうと、皆さん自然とスマホを向けられていました。蕾だとしだれ枝ぶりがよく分るという前向きな声も。

関宿は江戸時代、参勤交代や伊勢参りなど多くの人や物が行き交い、1日に1万人もの往来があったとも伝えられています。しかし今日はそら組旅人の半ば貸し切り状態です。旧東海道の宿場町の中で唯一、往時の面影を今に伝える歴史的な町並みを、ガイドさんの説明を聞きつつ4グループでゆっくり散策しました。

高札場ではそら組の旅人が、札を見上げました。東海道の地道風カラー舗装、無電柱化で、眺関亭(ちょうかんてい)からは、町並みの背景に鈴鹿の山々と地藏院本堂の大屋根が現れました。関宿旅籠玉屋歴史資料館は、市文化財に指定されている江戸時代の貴重な旅籠建築を修復し、旅籠で使われていた道具や歴史資料が展示してあります。関宿の歴史的な町並みとともに我々を江戸の宿場の世界へ誘います。関まちなみ資料館(旧別所家)は、関宿を代表する町屋のひとつです。当時の暮らしを思わせる展示があり、見やすく工夫してあるだけでなく、建築の間取りそのものや、内装からも江戸時代の庶民の生活をうかがい知ることができました。地域の皆さんの協力あってこそその町並み保存と感心するも、馬や荷車の代わりに無音の車が通るのが、興ざめな部分でした。



展望台からの庭園眺望



呉服枝垂『天の龍』



呉服枝垂



町並み(眺関亭より)



江戸時代の商家風の郵便局



橋爪家起り(むくり)屋根



宝珠の玉型虫籠窓(玉屋)

## 後記

庭園は淡いピンクにけむり、株もとにクリスマスローズやスイセン、福寿草、そして青空。春の風情いっぱいカメラアングル抜群。梅のふくいくたる香りにつつまれた気分で、気づけば180枚余り。はじめ「しだれ梅を・・・しだれるがごとく」、途中で少ない花を見栄え良くと・・・。ふたを開ければ、むなしい努力でした。

関宿では、江戸時代にタイムスリップしたかのよう。昔の旅人に思いを重ねて通りを行き来し、フォトジェニックスポットを探し求めていました。起り屋根(むくりやね)や宝珠の玉型虫籠窓等、特色のある細部意匠や赤くないポスト等、目につきしだいパチリパチリ。ガイドの説明脇に置き、しっかり楽しんでいました。

梅と宿場のコラボの、いいバス旅行企画と思うも梅は蕾で、時節柄、参加者が減ってしまい残念でした。

「梅2分咲き、2分咲き程の入園料」、「見頃はあがるが満開とは言わぬ梅の花、クローズアップで見頃感出す」